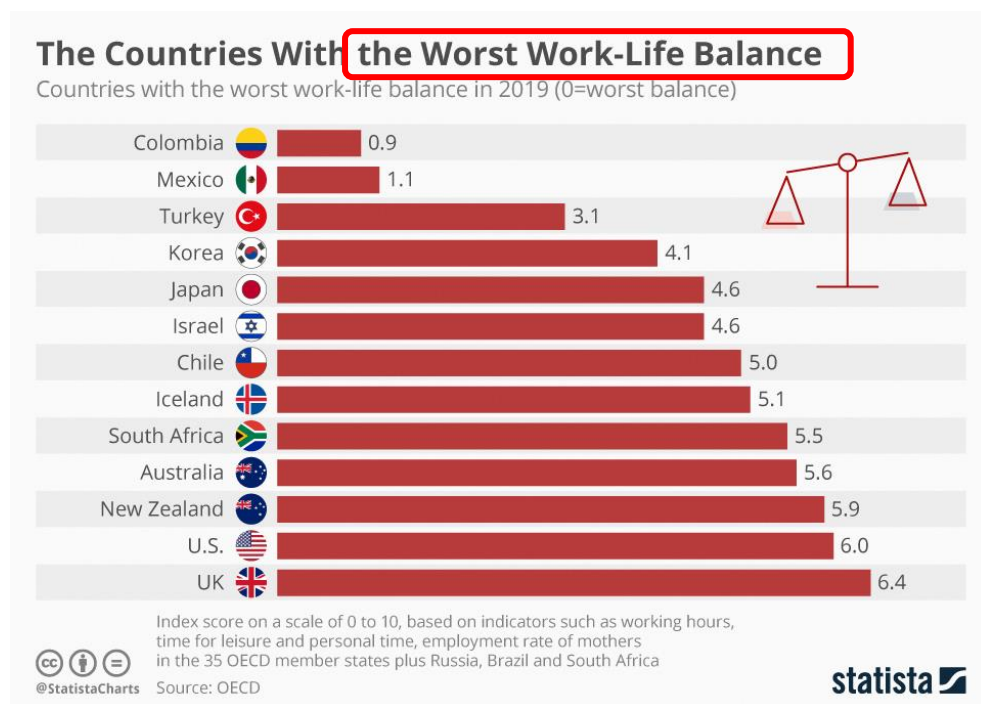


【資料1】 ワーク・ライフ・バランスに関するOECDの調査結果

経済協力開発機構（OECD）が2019年に発表した国別のワーク・ライフ・バランスに関する調査の結果をランキング形式で発表。対象国はOECD加盟国35カ国に、ロシア、ブラジル、南アフリカを加えた38カ国。

1つ目の図はランキングの結果を最下位から順に示したものの、

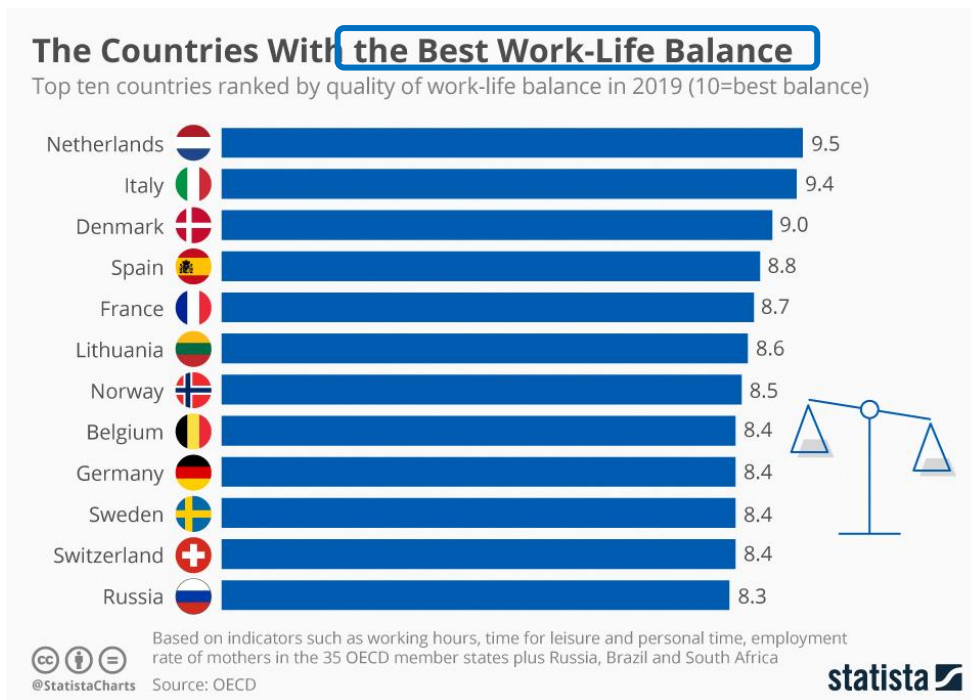
ランク付けの要素のうち最も重要なのが「職場以外で費やす時間」で、その他に「レジャーやプライベートに費やす時間」、「子を持つ女性の就業率」などの要素もランク付けに反映されている。



日本は下位から数えて5番目。特に、「非常に長時間（週50時間以上）働く従業員」が17.9%で、対象国全体の平均11%を大きく上回っていることが大きな要因となっている。

また、「レジャーやプライベートに費やす時間」が少ないこと、「女性の就業率」が低いことなども要因である。

一方、2つ目の図は、ワーク・ライフ・バランスが取れている上位の国々



その中のオランダでは「非常に長い時間（週50時間以上）働いている従業員」は、わずか0.4%で、OECDで3番目に低い割合。

また、女性の就業率はOECD平均をはるかに上回っている（OECD平均の57.5%に対して69.9%）。母親の就業率も同様となっている。

参考：<http://www.oecdbetterlifeindex.org/topics/work-life-balance/>